



2020年度 年主題「こころが満たされる」

0・1・2歳児 10月主題 「楽しい」

月のねがい

- ◎保育者と一緒にさんびかを歌おうとする
- ◎身体や心を動かして遊びを楽しむ
- ◎保育者とかわりを深め安心して過ごす
- ◎のびのびと表現したことを周りの人に受け止めてもらう

3・4・5歳児 10月主題 「楽しむ」

月のねがい

- ◎神さまに愛され恵みをいただいていることを感じる
- ◎友だちとアイデアを出し合ったり試行錯誤しながら一緒に遊びを作り上げていくことを楽しむ
- ◎身体を動かし、心を弾ませる経験をする



みんなの輪 運動会

2学期が始まり1か月が過ぎました。9月半ばより子どもたちも運動会に向けて、それぞれおけいこが始まっています。ひかり・めぐみさんは、準備体操をウキウキパレードの曲に合わせて身体いっぱい楽しんでます。バランスをとるのが難しいけれど、よろめきながらも一生懸命な姿がとってもかわいらしいです。くじら・いるか・あい組さんは、綱引き、園児リレーにと、保育者も一緒に盛り上がっています。綱引きでのかけ声は「ソーシャル ディスタンス！！」この言葉に気持ちを込めて綱を握り、気合十分です。赤・青・黄色各チームにわかれ、綱の持ち方や引っ張り方などどうしたらいいか作戦会議をしています。くじら・いるかさんの姿に圧倒されながらも参加しているあい組さん。まだ綱を持っていない子、反対向きに引っ張る子と様々ですが、その姿も微笑ましいです。そんなあい組さんの姿を見ると、先頭でたくましく頑張っているくじらさんも、あい組の時はこうだったなあ…と成長を感じることでした。きっと、いるか・あい組さんも…。想像するととても楽しみで仕方ありません。



今年度の運動会のテーマは「みんなの輪～つなげよう みんなの気持ち～」です。今の時代こそ、笑顔の輪、友だちの輪、家族の輪、心の輪、幸せの輪が大切です。人を思い合える気持ちがつながって大きな輪になっていくようにと願いを込めて決めました。運動会を通してみんなで、様々な感じ合い、伝え合う機会となれば幸いです。

今年度は新型コロナウイルス感染症拡大防止で制限などもあり、例年とは違う形の運動会となりますが、子どもたちはいつもと変わらず、楽しむこと、頑張ること、悔しがることに全力です！そんな子どもたちを笑顔で見守り、たくさんの声援をいただければと願っています。宜しくお願いします。 主任 松元

今月の聖句 あなたの隣人を自分自身のように愛しなさい。

「あなたの隣人を自分自身のように愛しなさい。」これは、聖書の教えの中でもよく知られた大切な教えの一つです。けれども、このイエス・キリストの教えは何を言っているのでしょうか。飛行機に乗りますと、緊急時における救命胴衣や酸素マスクの着用についての説明があります。小さなお子さんと一緒に飛行機に乗っているとします。緊急時に酸素マスクが頭上から垂れてきました。さて、皆さんであれば、その酸素マスクを最初に誰に付けるでしょうか。お子さんでしょうか、ご自身でしょうか。正解は、実はご自身が先なのです。自分がまず安全を確保しなければ、他者を助けることが出来ないからです。これは飛行機での緊急時に限らず、震災や天災などにおける救援活動などにおいても同じことが言えるのです。つまり、他者を助けられる人、他者を愛することが出来る人というのは、まず自分自身を愛することが出来る人でなければなりません、ということなのです。

正しい、豊かな、基本的愛情を受けて育った子どもは、自ずと愛するということがどういふことなのかを知っています。愛されるということ、心でも頭でも身体でも覚えていきます。幼児期の子どもに格別の愛情を注がなければならない理由はそこにあります。そして他者に対しても愛情豊かな人へと成長していくでしょう。

協力牧師 池田基宣



10月の行事予定

3日(土)	父母の会ゴミ拾い作業
6日(火)	いもほり
9日(金)	運動会予行練習・弁当日
17日(土)	第63回運動会
19日(月)	1号児振替休日
21日(水)	秋の遠足(3才以上児)
27日(火)	おにぎり・スープパーティー
28日(水)	秋の遠足(0・1・2才児)
22・23日	内科検診

11月の行事予定

6日(金)	誕生会(2才以上10～12生)
11日(水)	給食バイキング(3才以上)
12日(木)	弁当日
17日(火)	父母の会役員会
21日(土)	入園説明会
28日(土)	持久走大会・弁当日
予定	やさきもパーティー

働きがい改革 くほめること

さすがに、いつもより心配した台風十号もい意味で、事前の予想を裏切ってくれて、大きな被害も無く一安心でした。現在まで発生した台風は十三個ですから、例年より随分少ないようです。ただ、十月の台風は例年大きいのがあり、まだまだ油断大敵です。願わくは、運動会が好天の中で無事行われんことを祈ります。

さて、今の小学生が大人になって就く仕事の四割は、今の世に存在しない仕事だと言われます。つまり、今ある仕事の四割が無くなってしまうということ。このコロナ禍を経て、それは一気に加速するかも知れません。現に我々も、すべて出張はなくなり、園長会などの会議や保育者の研修から合同就職説明会まで、ほぼオンラインでの実施になっています。そして、それが実際に出来てしまっているわけです。これらに費やす諸経費が軽減される反面、そこに関わる人々の仕事(経済の規模)も縮小していくことになり、今回のコロナ禍を通して、基盤としていたものが有事によって変われば、経済的な豊かさは簡単に崩れてしまうことに私たちは気付かされてきました。これからは、あらゆる意味での人間力を活かして生きていく道が求められるのではないのでしょうか。簡単に折れないしなやかな心を持った生き方。「働き方改革」より「働きがい改革」かも知れません。

最近「日本ほめる達人協会」という団体を知りました。決してお遊びでは無く、検定の昇級もある真面目な社団法人です。「ほめる達人」を世界中に生み出し、「人々に元気を与える」ことを目的とした活動をされているようです。理事長が言われるには、「ほめる」とは、おだてることではなく、価値を発見して伝えること」「相手に意識を向けること」とのこと。暗闇に落ちていくダイヤモンドは誰も気付かれません、そこに意識(光)を向ければ、その価値に気付かされるわけです。ここで大事なのは、「ほめる」ことを他人のコントロールには使わないということ。ほめて動かしてやるという心は、すぐに相手に伝わるってしてしまうものです。自分の心に余裕のないときは、相手の良いところは見つけられません。人をほめることによって、自分自身の心が整いだし、周りに光を当てて輝かせるほどに、その中心にいます。自分自身がたくさんの光を浴び輝くことが出来るのだと思います。

前理事長の故池田公栄が天に召されて一年が経ちました。園庭にある『探求・感謝』の碑文を見る度に、幼児教育とそれに関わる者の姿勢を新たにしてくれます。日々の生活を守られ、生かされていることに感謝を忘れない。自分の好きなことに熱中し求め続けること。子どもたちと共にこの言葉を胸に刻み続けていきたいと思います。

子どもたちがもつとも活発な活動を展開する実りの時期です。ゆつくりと周囲の自然を観察しながら落ち着いた時間を満喫したいと思えます。脱穀、芋掘り、遠足、など屋外での活動を通して、いのちはずむ時となることでしょう。

学園長

幸せなら手を叩こう
きむら りひと作詞 スペイン民謡

幸せなら手をたたこう	幸せなら 手をたたこう
幸せなら 態度で示そうよ	ほらみんなで手をたたこう
幸せなら 足ならそう	幸せなら 足ならそう
幸せなら 態度で示そうよ	ほら みんなで 足ならそう
幸せなら 肩たたこう	幸せなら 肩たたこう
幸せなら 態度で示そうよ	ほら みんなで 肩たたこう
幸せなら ほったたこう	幸せなら ほったたこう
幸せなら 態度で示そうよ	ほらみんなでほったたこう
幸せなら ウィンクしよう	幸せなら ウィンクしよう
幸せなら 態度で示そうよ	ほらみんなでウィンクしよう
幸せなら 指ならそう	幸せなら 指ならそう
幸せなら 態度で示そうよ	ほら みんなで 指ならそう
幸せなら 泣きましよう	幸せなら 泣きましよう
幸せなら 態度で示そうよ	ほら みんなで 泣きましよう
幸せなら 笑いましよう	幸せなら 笑いましよう
幸せなら 態度で示そうよ	ほら みんなで 笑いましよう
幸せなら 手をつなごう	幸せなら 手をつなごう
幸せなら 態度で示そうよ	ほら みんなで 手をつなごう
幸せなら 飛び上ろう	幸せなら 飛び上ろう
幸せなら 態度で示そうよ	ほら みんなで 飛び上ろう
幸せなら 最初から	幸せなら 最初から
幸せなら 態度で示そうよ	ほら みんなで 最初から

毎年、運動会には年長児を中心にマーチングに挑戦しています。そして今年、音楽講師の栄子先生が提案した曲目は、この「幸せなら手をたたこう」でした。

この曲は、日本では1964年に坂本九氏が歌ってヒットし童謡としても親しまれています。作詞は、早稲田大学人間科学部名誉教授の木村利人氏。元々は氏が学生時代にフィリピンでボランティア活動をしていた際に、旧約聖書の詩篇47篇を参考にして詞を付けたものが元になっているそうです。これが仲間内の愛唱歌として歌われていたのを偶然坂本氏が耳にし、いずみたく氏の元にうろ覚えのまま持ち込み、それを元にいずみ氏が採譜してレコード化、全国的にヒットすることとなったようです。1965年の春には、第37回選抜高校野球大会の開会式入場行進にも使用されました。2007年には、文化庁が発表した日本の歌百選にも選出されています。

童謡は幼児期の子どもたちの心を弾ませ、体の中に持っている気持ちを表現してくれる楽しいものです。子どもたちが日々の生活の中で、笑ったり、泣いたり、怒ったりする感情を素直に出すことは素晴らしいことです。それを周りの大人に受け入れられ、「まあいいか！」と折り合いを付けていく経験をさせてあげればと願っています。

運動会は是非、保護者の方々と一緒に手をたたいたり、笑ったり、泣いたり、ウィンクしたり、飛び上がったりを楽しめれば幸いです。

園長